

岡村恭香が 今季初タイトルを獲得!

4月6日から12日にわたり国際大会のITF ツアー W35「富士薬品セイムス ウィメンズカップ」が、大阪のモリタテニスセンター観で開催された。この大会に30歳の岡村恭香が第7シードで出場し、今季初優勝を飾った。

1回戦で1セットダウンから逆転して大接戦を制した岡村は、2回戦と準々決勝では20歳と19歳の日本期待の若手をストレートで退けた。準決勝では第1シードの伊藤あおいと対戦。独特なプレースタイルの伊藤を逆転で制すると、決勝では第2シードのアメリカ人選手にストレートで勝利して久々の優勝を手に入れた。

岡村は「この度、W35 富士薬品セイムスカップ大阪のシングルスにて優勝いたしました。初戦から苦しい戦いばかりでしたが、大会第1、2シードを連破して優勝をもぎ取ることができました。今大会は特に若い選手との対戦が多かったのですが、若手と相対しても走り勝つことが出来たことはとても大きな自信となりました。自分自身、今が心技体円熟の機を迎えていると感じております。これを機にグランドスラム出場に届くランキングに再び引き上げ、目標である本戦の舞台で戦うためにより一層精進してまいります。今後とも引き続き応援のほど、よろしく願いいたします」と大会を振り返り、自信を手に入れた様子。

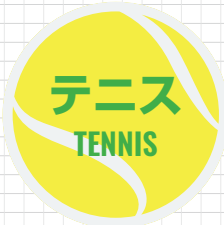
この優勝により、300位台だったランキングは289位にまで浮上している。目指すグランドスラム本戦の舞台に立つには、この勢いに乗り上昇したいところだ。



国際大会では
2025年1月以来の
優勝となった
岡村恭香

試合結果

決勝	6-4,6-4	Hina Inoue (USA)
準決勝	4-6,6-3,7-5	伊藤あおい (JPN)
準決勝	6-4,6-4	小池愛菜 (JPN)
2回戦	6-4,6-3	石井さやか (JPN)
1回戦	5-7,7-5,7-5	Jaeda Daniel(USA)



坂詰姫野が日本代表で1勝。 三井駿介と所属契約を締結

女子の国別対抗戦「ビリー・ジーン・キング・カップ」のファイナル予選日本対イタリアが、4月10日、11日にイタリアで行われ、坂詰姫野が日本代表として戦った。イタリアは大会2連覇中の強豪国。坂詰はシングルス2として出場し、1日目は世界9位のJ・パオリーニと対戦して敗北を喫した。日本は0勝3敗で敗退が決定したが、4試合目に坂詰が勝利を挙げて一矢を報いている。

坂詰は「ファイナルに行けず悔しいですが、前回大会優勝チームと対戦し、とても貴重な経験になりました。日頃から橋本総業の皆様を支えていただいて、日本の国旗を背負って戦える数少ないチャンスを掴むことができたことはうれしく思います。またここからレベルアップしていけるように精進して参ります」とコメント。世界トップ選手との対戦は貴重な経験となることだろう。

日本リーグのスポット契約だった三井駿介が、4月からは所属契約となった。アメリカ留学を経てプロに転向した三井は、日本リーグのダブルスで流れを呼び込む元気なプレーを見せていた。今後のプロとしての活躍にも期待しよう。



坂詰 姫野

Himeno Sakatsume

日本代表として
イタリアの
クレーで戦った
坂詰姫野



三井 駿介

Shunsuke Mitsui

日本リーグで
活躍した
三井駿介が
所属契約に



柴原 瑛菜

Ena Shibahara

ITF W75
SINGLES
準優勝

ITF W75
島津全日本室内テニス選手権
日本・京都
3月9日～3月15日
シングルス準優勝

小堀 桃子

Momoko Kobori



ITF W75
DOUBLES
優勝

ITF W75
甲府国際オープン
日本・甲府
3月16日～3月22日
ダブルス優勝

福田創楽 / ビツウンテアン零朗

Sora Fukuda / Leo Vithoontien

ITF M15
DOUBLES
優勝

ITF M15
MEIKEI オープン
日本・筑波
3月23日～3月29日
ダブルス優勝



河内 一真

Kazuma Kawachi

JTT-2
DOUBLES
準優勝

JTT-2
島津全日本室内テニス選手権
日本・京都
3月4日～3月8日
ダブルス準優勝



コーチのプロに聞く

コーチングの極意

部下が思うように仕事をしてくれない。意思の疎通が難しい。

年齢差を感じるなどと思ったことはないだろうか？

コーチングのプロであるコーチ・監督陣に、指導で気を付けていることを聞いた。

部下と接する際のヒントにしてほしい。

PROFILE



今回の指導者

杉山 記一 監督

Norikazu Sugiyama

男子チームの監督。早稲田大学卒業後、スペインを拠点に世界中を転戦。テニス選手引退後は早稲田大学大学院でスポーツビジネスを研究し、現在は麻布中・高等学校などでのテニス指導をする他、小・中学生を対象としたジュニアアカデミーも運営している。

目標設定と達成までの道筋を一緒に考える

—普段はどのようなところで指導をしていますか？

杉山 中学、高校でテニスの指導をしており、ジュニアアカデミーも運営しています。その生徒は勉強とスポーツを両立するという、経営者の息子さんたちがほとんどです。テニスの上達だけでなく、テニスを通じて社会人として成長できるようにしています。そのため、慶応や東大の学生などスポーツも勉強もできるコーチが指導するようにしています。テニスだけ教えればいわけではなく、世界に出て行って日本人として活躍する人材育成のテニスアカデミーになっています。



—そこでの指導で気を付けていることは？

杉山 目標に向かって地道な努力を積み上げることや、課題

修正能力、目標設定能力など、忍耐力や考え方も育つようにしています。例えば、「こういう結果を求めるのであれば、毎日トレーニングしましょう」というように、良い結果を出すには日々積み上げていくことが大切だと教えます。テニスの上達には直接関係ありませんが、必ず学校のテストの点数もしっかり取っていくようにもしています。テニスを通して人材育成をしている感じです。将来、会社を背負って立つ子どもたちが多くいて、目標設定の仕方や、達成する方法を身をもって学べるようにしています。



—2025 年末には、橋本総業の男子チームには新メンバーが加入しました。新加入した選手たちに対して気を付けていることは？

杉山 コミュニケーションを取っていくことです。できるだけ一緒にいる、選手と会話する。一緒にご飯を食べたり、練習したり。選手たちとできるだけ多くの時間を過ごすことを心掛けています。選手にがむしゃらに頑張らせるのではなく、このランキングに行くには、これだけのフィジカルを手に入れようとか、そういう設定をしてあげます。ただ頑張りなさいと言うだけでは、頑張れないですからね。

—具体的にはどんなサポートをしていますか

杉山 常に練習を見てあげることはできないので、コーチに任せる時には、その選手の課題や練習していることをちゃんとシェアしておきます。違う所で練習する時には、選手に動画を送ってもらって状態や課題を把握するようにしました。その選手がまだ課題を達成していなかったら、ここまで頑張ろう、筋力を上げよう、体力を付けようというような具体的にすべきことを話し合っています。

—目標設定をして、達成まで寄り添っていくんですね。ありがとうございました。

コーチングの
ポイント

- ✓ 目標を明確にし、道筋を描く
- ✓ コミュニケーションを密に取る
- ✓ 成果へのサポートを継続する



働くテニスプレーヤー TENNIS KAITOのコラム



営業担当2年目の鉢呂海斗が、テニスで磨いた「心技体」、お客様へ安心を届けるビジネスアスリートへ。営業のプロとして、そして未来のリーダーとして走り出す。

「ビジネスアスリート」として

入社当初、会社が掲げる「ビジネスアスリート」という言葉を耳にした時、その真意がどこにあるのか正直なところ戸惑いもありました。しかし、日々の業務を通じて、その言葉が持つ重みを肌で感じるようになっていきます。

ある時、お客様から「君はメンタルが強いね」という言葉をいただきました。学生時代、テニスという過酷なスポーツで一人コートに立ち、全国大会という大舞台で極限のプレッシャーと戦い抜いてきた経験。そこで培われた「心、技、体」の精神力が、ビジネスの現場における「柔軟な対応力」や「スピード感」として、お客様からの信頼に繋がっているのだと気づかされま

した。社会人としては知識が未熟であっても、アスリートとして培われた姿勢が、私にとって最大の武器になっています。

同期との絆、ライバルの存在

橋本総業の魅力は、何といてもこの「職場環境の良さ」と「人の繋がり」にあると感じています。幸いなことに、私の同期は非常に仲が良く、現在も誰一人欠けることなく切磋琢磨して頑張っています。互いに仕事の悩みを言い合い、最後には「明日も頑張ろう」と励まし合える関係は、何物にも代えがたい財産です。

一方で、同年代の優秀な中途採用の方々

も次々と入社しており、若手層の活気がさらに増えています。25歳前後の経験豊かなライバルたちの登場は、私にとって大きな刺激です。新卒として入社した誇りを持ちつつ、彼らの持つスピード感やスキルに負けないよう、持ち前の「負けじ魂」で自分を磨き続けていきたいと考えています。

マネジメントへの挑戦

入社2年目の今は、毎日が新しい発見と学びの連続です。以前はテニス一筋だった私の視野も、今では街中の住宅設備や空調機に自然と目が向くほど広がりました。フォローアップ研修などを通じて着実に専門知識を蓄え、まずは3年後に、予算を任せられる一人前の営業になることが当面の目標です。

しかし、私の目標はそこにとどまりません。現場で「商売の本質は信頼と安心感である」という教えを学びました。この学びを深め、ゆくゆくは積極的に昇格を目指し、将来的には課長職としてチームを率いるマネジメントにも挑戦したいと考えています。テニスの試合と同じように、一戦一戦（一日一日）のラリーを大切に。住まいと暮らしを支える「ビジネスアスリート」の先頭を走れるよう、これからも一層精進してまいります。引き続き、応援よろしくお願いたします！

PROFILE

鉢呂 海斗

Kaito Hachiro

2002年6月1日生まれ、東京都出身。国士館大学卒業後、橋本総業へ入社。中学以降はテニスに打ち込み、大学時代には全国大会出場という実績を持つ。現在は営業担当として約6社のお客様を受け持ち、休日は趣味のテニスを通じて社内交流を広げている、情熱あふれる2年目



ゴルフ 荒川怜郁がプロ初優勝！

ステップ・アップ・ツアー『フンドーキンレディース』（4月14日～16日／大分県・臼杵カントリークラブ／6,477ヤード・パー72）で、プロ4年目の荒川怜郁が通算7アンダーで初優勝を果たした。荒川は、「日頃からたくさんのサポートをいただいているおかげで、このような結果を残すことができました。来週からも優勝を目指してまた頑張ろうと思いますので、応援よろしくお願いたします」と感謝と共に、次の優勝を狙っている。



故障を乗り越えて頂点に立った荒川

浅地洋佑がLIVゴルフ出場権を獲得

アジアンツアー「インターナショナルシリーズ」のポイントランキング上位2名が獲得できる2026年の「LIVゴルフ」の出場権。浅地洋佑は見事2位となり初め

で参戦している。「LIVゴルフ」ツアーは2022年に誕生したサウジアラビアのプロゴルフツアーで、賞金額が超高額であることが特徴。2026年は日本から浅地のみが出場する。今年1年でどれほどの金額を獲得できるのか、興味深い。



LIVゴルフのメンバー章を持って笑顔の浅地